令和４年度　足立小学校便り

ひまわり

学力特集号

令和５年１月３０日
北九州市立足立小学校

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	学習指導要領の3つの領域の中では、「話すこと・聞くこと」の領域が、全国との正答率より高かった。「書くこと」の領域では、全国の正答率よりも低かったです。文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題が見られました。文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることへの理解は、全国との正答率より高かったです。
算数	学習指導要領の4つの領域の中では、どの領域も全国との正答率より低かったです。特に「図形」や「変化と関係」の領域に課題が多く見られました。正三角形や長方形、ひし形、平行四辺形の意味や性質、構成の仕方についての理解に課題が見られました。また、割合の問題についても課題が見られました。どの設問に関しても、無回答の児童は一人もいませんでした。
理科	学習指導要領の4つの領域の中では、どの領域も全国との正答率より低かったです。特に「粒子」や「生命」を柱とする領域に課題が多く見られました。メスシリンダーという器具の名称や液面のメモリの読み方、実験の結果を表から読み取り、自分の考えをもつことに課題が見られました。また、テントウムシが卵から幼虫になり、さなぎになって成虫になるという情報を問題文から読み取り、自分でまとめるような記述の問題に課題が見られました。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
○学校に行くことや友達と協力することが楽しいと思っている児童は、全国平均より多いです。 ○学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると答えた児童は、全国平均より多いです。 ○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思っている児童は、全国平均より多いです。 ○先生が、自分のよいところを認めてくれていると思う児童は、全国平均より多いです。 ●各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ってきたと思っている児童は、全国平均より少ないです。 ●学校の授業時間以外の、平日や休みの日の１日当たりの勉強時間については、全国平均より少ないです。 ●将来の夢や目標を持っていると答えた児童は、全国平均より少ないです。 アンケートの結果からアンケートの結果から、充実した学校生活を送ることができている児童が多いと考えます。また、算数、理科の学習を好きと感じている児童は多いですが、国語は半数ぐらいはどちらかと言えば好きではないと感じているようです。自分の考えをまとめる活動や、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動に課題を感じている傾向にあります。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

１時間の授業の中に、自分の考えを「書く」活動、「話し合う」活動を位置付けるだけでなく、「自分の考えをまとめる」活動を取り入れるようにします。また、自分の考えをまとめる際にも、GIGA端末等の思考ツールやプレゼンソフト等を効果的に活用し、授業の流れ「足立スタンダード」を徹底しながら、授業改善に取り組んでいきます。

② 家庭生活習慣等に関する取組

学校の授業時間以外での家庭学習の充実を図るために、家庭学習における課題への向かわせ方や内容、量を見直していきます。「受けた授業が自分に合った教え方になっていると思う。」と答えている児童は多いため、今後は、学校での学びをAIドリルやプリント、自主学習ノート等を効果的に活用しながら、しっかりと定着できるように、積極的に呼びかけます。